

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援 unico古賀 公表日 2025年 4月 25日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		一度に1階フロアを全員で使うと狭いが、2階を有効活用している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			死角があり、複数の職員で配置を工夫しないと目が離れてしまう。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		昨年12月にネズミが出たことで駆除している。 教室環境の整備が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて、リラックスルームや相談室を利用し個別対応できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		今回の評価表を受けて、振り返りを行う。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼・終礼で一日の流れや児童についての意見交流、毎月の運営mtgでそれぞれの担当から業務内容報告と改善案等の話し合いが行われている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		コーポレートや相談支援員など外部評価を職員に共有している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13	児童発達支援計画を作成するには、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼で役割分担し、連携を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼時に必ずその日の共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		担当者会議だけでなく、必要な際は保育園や幼稚園と児童の様子を共有し、連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後検討していく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時にお会いする方にはその都度伝え、お会いできない方は電話でお伝えしている。月に必ず1回は保護者電話で最近の様子を共有をするようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○	送迎時にお会いする方にはその都度伝え、お会いできない方は電話でお伝えしている。月に必ず1回は保護者電話で最近の様子を共有したり、必要に応じては面談をしたりしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		屋外活動や注意の必要な活動の場合は事前にかくぶりや利用児童の保護者へ詳細をメッセージしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
非営利	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			

常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス unico古賀		公表日		2025年 4月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		一度に1階フロアを全員で使うと狭いが、2階を有効活用している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			死角があり、複数の職員で配置を工夫しないと目が離れてしまう。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		昨年12月にネズミが出たことで駆除している。 教室環境の整備が必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて、リラックスルームや相談室を利用し個別対応できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。			今回の評価表を受けて、振り返りを行う。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝礼・終礼で一日の流れや児童についての意見交流、毎月の運営mtgでそれぞれの担当から業務内容報告と改善案等の話し合いが行われている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		コーポレートや相談支援員など外部評価を職員に共有している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼で役割分担し、連携を図っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		児童発達支援は終礼できているが、放デイは終礼はできず翌日の朝礼で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		ワークショップをする際に、一人ひとりに選択を促したり、役割分担を提示したりして自己決定をする力を育てる工夫をしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		

	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。				
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		長期担当児童を決め、月に一度は保護者と電話連絡や対面で子どもの状況を共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		屋外活動や注意の必要な活動の場合は事前にくぐりや利用児童の保護者へ詳細をメッセージしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			

対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 unico古賀			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な体験や学びにつながるワークショップ活動の実践	お子さまが主体的にワークショップに参加できるように工夫しています。自分で作るものを考えたり、選んだりできるように視覚的に提示することや、お子さまのアイディアに質問していく中でさらに引き出していき、子どもたち自身が「やってみたい！」と主体的に活動に参加することができるようにしています。	子どもたちの興味関心に沿った活動だけでなく、unicooでしかできないこと、新しい発見や経験ができるよう日々職員でワークショップの案を出し合い、充実化を図ります。
2	日々の支援内容に関する保護者様との密な連携	電子連絡帳を通した日々のお子様様子の共有だけでなく、送迎時に対面で共有を行ったり、月に一度お電話にて共有を行ったり、場合によっては面談を行い保護者の方との連携を図っています。	今後も保護者様との連携がより円滑に行えるように、お子様の状況や保護者様からのご希望に合わせてより積極的に電話や対面での相談を行います。
3	子どもたち自身が自信をもって選択していくことができるような関わり	子どもたち自身が持つ「育つ力」を信じ、「こども」と「おとな」ではなく、対等な関係性を築くことを大切にしています。	子どもたちとの関わりを通しての日々の学びや、定期的なケース検討や振り返りを通して「子どもが育つとは何か」「可能性の解放とはなにか」を改めて見つめ直し、支援の質の向上につなげていきます。日頃から職員間で共有し、お互いに、チームとして向上し合える関係を築いています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	それぞれの活動に応じた環境設定の更なる工夫	活動内容や状態に応じて過ごす場所を選択できるよう、多様なスペースを設計しておりますが、よりそれぞれの活動が充実したりニーズに沿った環境を提供できるような工夫が必要だと考えております。	・事業所内の活動だけでなく、お子様の状況に応じて、公園やグラウンドなどの事業所外での活動ができるように、お子様へご提案を行います。 ・お子さまが自分がしたい活動を楽しむことが出来る環境設定のために、場所を仕切って、空間の中にその子だけの新たな空間を作り出すなどの工夫に努めていきます。
2	お子さまが一人ひとりが安心して過ごすことができる居場所づくり	毎日清掃を行っていますが、次回の来所が待ち遠しくなるような、明るくて心地よく過ごすことができるような工夫、環境を整えることが必要だと考えております。	・研修や振り返りなどを通して、職員全員でお子さまが安心して過ごせる環境づくりについての認識を揃えられるよう努めてまいります。 ・お子さまがより快適に過ごせるような空間づくりを目指して、速やかな環境修繕、清掃や整理整頓に努めてまいります。

3	事業所の状況や取り組みなどの保護者様へのご案内	事故後の安全対策の検討や非常時に備えた対策会議などは実施しておりますが、保護者様に安心していただけるようなご説明が十分でないことがありました。	事故や事業所での取り組みなど、現状や今後の見通し、保護者様への依頼などをより詳しくわかりやすくお伝えし、安心していただけるようなご説明、周知などの迅速な対応をしていきます。
---	-------------------------	---	--

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス unico古賀			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	85名	(回答者数)	35名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 12日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な体験や学びにつながるワークショップ活動の実践	季節の行事や合同イベント、外出ワークショップなどスペシャルな活動の参加や素材の提供で子どもたちが自分で選べるを意識した毎日のワークショップを実施しています。	子どもたちの方から“unicoならこんなことができるかもしれない！”“こんなことやってみたい！”とワークショップのアイデアが出るような教室を目指して、子どもたちの興味関心に沿った活動だけでなく、unicoでしかできないこと、新しい発見や経験ができるよう日々職員でワークショップの案を出し合っています。
2	子どもたち自身が自信をもって選択していくことができるような関わり	子どもたち自身が持つ「育つ力」を信じ、「こども」と「おとな」ではなく、対等な関係性を築くことを大切にしています。	子どもたちとの関わりを通しての日々の学びや、定期的なケース検討や振り返りを通して「子どもが育つとは何か」「可能性の解放とはなにか」を改めて見つめ直し、支援の質の向上につなげていきます。日頃から職員間で共有し、お互いに、チームとして向上し合える関係を築いています。
3	社会経験のための外出活動や機会提供	季節の行事や合同イベント、外出ワークショップなどスペシャルな活動の企画を行い、その中で、お買い物学習や社会ルールを学ぶ機会を取り入れる事で、お子さまの社会的な自立をサポートする支援を行っています。	普段の生活では経験できない機会提供が出来るように、お子様からの意見を取り入れ、企画力の向上に努めています。また、お子さまの発達段階に合わせた外出支援が出来るように、職員間での情報共有に努めています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	それぞれの活動に応じた環境設定の更なる工夫	活動内容や状態に応じて過ごす場所を選択できるよう、多様なスペースを設計しておりますが、よりそれぞれの活動が充実したりニーズに沿った環境を提供できるような工夫が必要だと考えております。	・事業所内の活動だけでなく、お子様の状況に応じて、公園やグラウンドなどの事業所外での活動ができるように、お子様へご提案を行います。 ・お子さまが自分がしたい活動を楽しむことが出来る環境設定のために、場所を仕切って、空間の中にその子だけの新たな空間を作り出すなどの工夫に努めていきます。
2	お子さまが一人ひとりが安心して過ごすことができる居場所づくり	毎日清掃を行っていますが、次回の来所が待ち遠しくなるような、明るくて心地よく過ごすことができるような工夫、環境を整えることが必要だと考えております。	・研修や振り返りなどを通して、職員全員でお子さまが安心して過ごせる環境づくりについての認識を揃えられるよう努めてまいります。 ・お子さまがより快適に過ごせるような空間づくりを目指して、速やかな環境修繕、清掃や整理整頓に努めてまいります。

3	専門性のある支援を実感していただける保護者様との連携	個別支援計画書と専門的支援実施計画書の関連性においてご説明が十分でなく、日々の支援効果との繋がりがしっかりと伝えられていないことがありました。	保護者の皆様が安心してご利用いただけるよう、職員間で個別支援計画書の目標に基づく日々の支援内容を共有し合い、職員間の連携を強めていくと同時に、保護者様への情報共有に努めてまいります。
---	----------------------------	---	---